

メロンの接ぎ木苗生産における養生管理方法

メロンの接ぎ木作業は、晴天の続く日を選び、接ぎ木後、遮光した密閉トンネル内で養生します。養生開始後2～3日間ポリフィルムをべたがけすると、温湿度の保持と活着促進に効果があります。また、光反射シートや熱線反射フィルムによる遮光はトンネル内の温度上昇を抑制します。

● 接ぎ木前後の受光量の影響 ●

接ぎ木日前後に受光量が少ない場合は、接ぎ木苗の活着程度や接ぎ木後7日目の根長、接ぎ木後27日目の苗の生育が著しく劣ります。

接ぎ木前後の遮光が接ぎ木苗の活着に及ぼす影響

試験区名	活着程度 ²⁾
遮光 ¹⁾	1.2
慣行	2.6



接ぎ木後7日目
左：遮光、
中央：慣行

- 1) 接ぎ木日および前後2日、慣行区をさらに黒寒冷紗(遮光率80%)で遮光した。
- 2) 接ぎ木後7日目の活着程度 活着(3)、ややしおれ(2)、しおれ(1)、枯死(0)



接ぎ木後27日目
左：遮光、
中央：慣行

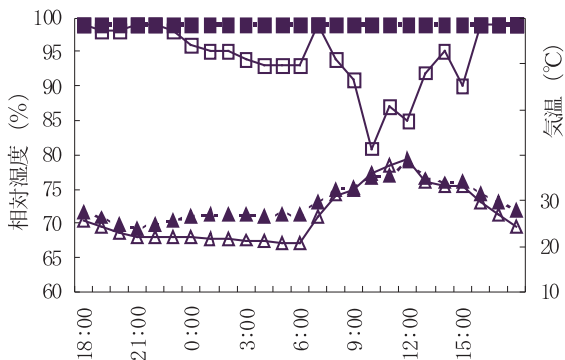
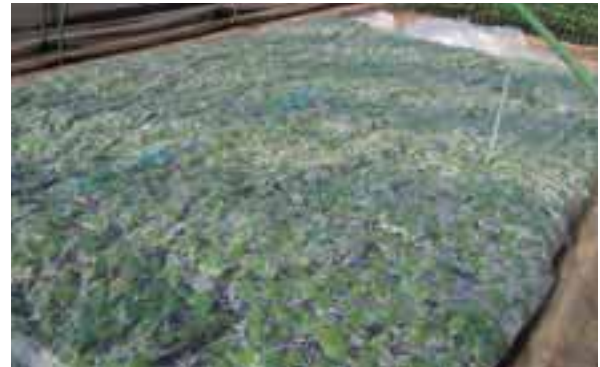


図 ポリべたがけの有無が接ぎ木苗周辺の湿度と気温に及ぼす影響
ポリべたがけ無区はトンネル内の湿度・気温

●■●●有区湿度 □□無区湿度 ●●▲▲有区気温 ▲▲無区気温

● ポリフィルムべたがけの効果 ●

養生時の接ぎ木苗へのポリフィルムのべたがけは、べたがけ内の湿度や気温を高く保ち、接ぎ木苗の活着と生育を促進します。



接ぎ木苗へのポリフィルムのべたがけ

● 遮光資材による昇温抑制 ●

養生時に光反射シートや赤外線反射フィルムでトンネルを遮光すると、黒寒冷紗で遮光した場合に比べてポリべたがけ内気温を2～3 低下できます。

遮光資材の違いがポリべたがけ内気温に及ぼす影響(右図)

遮光率はいずれの区も約95%に調整した
11/19の17時～11/22の16時までの毎時ごとの平均値

